

試験研究成果普及情報

部 門	花 植 木	対 象	普 及
課題名： 超薄層「マット植物」の生産技術			
[要約] 既存「マット植物」より軽量な超薄層「マット植物」の生産では、育成トレイの底にヤシ繊維シートを敷設すると強度が増す。匍匐性の植物は、培地のみ充填した育成トレイを親株周辺に設置し、伸長・発根後に分離する方法により効率的に生産できる。			
キーワード マット植物、薄層、ヤシ繊維シート、生産技術			
実施機関名	主 査 農業総合研究センター生産技術部花き緑化研究室 協力機関		
実施期間	2003年度～2005年度		

[目的及び背景] 既存のマット植物（地上部の被覆率が80%以上で、培地の厚さ4cmと根域が薄層化され、マット状になった緑化植物）と比較して、より薄層軽量なマット植物の生産は、苗の定植作業や活着が困難であり、生育も劣る傾向にある。そこで、より効率的に生産するための技術開発を行う。

[成果内容]

- 1 培地厚が薄いほど、生育やマット化に時間を要する（図1、2）。
- 2 ヤシ繊維シートを育成トレイの底に敷設すると、マット化が促進される（図2）。
- 3 匍匐性の植物は、親株の周囲に培地のみ充填した育成トレイを配置し、そこに伸びて発根した時点で分離することで省力的な生産が可能である。親株トレイと空トレイトレイの配置は、市松配置、1列間隔の交互配置とする（図3、4）。

[留意事項]

- 1 薄層ほど苗の定植が困難である。
- 2 薄層ほど乾燥しやすいため、灌水間隔や灌水量に留意する。
- 3 薄層ほど、根腐れ防止のためにトレイを傾斜させたり、排水用の紐をトレイの底に付ける等の排水促進のための対策を講じる。
- 4 培地のみ充填した育成トレイを親株周辺に設置して生産する方法は、タイム、ヒメイワダレソウ、ポテンティラ、ミント類等の匍匐性植物に向いている。親株としてトレイ栽培の状態でも構わないが、露地植えの方が増殖効率が高まる。

[普及対象地域] 県下全域

[行政上の措置]

[普及状況] マット植物は、海匠地域、印旛地域を主体に、県下で30名程度が生産を開始している。

[成果の概要]

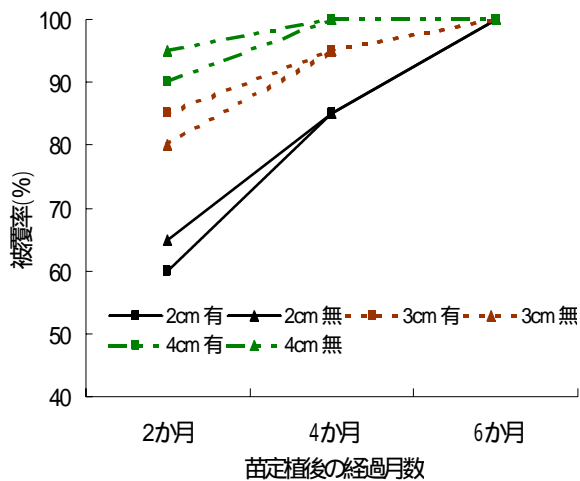


図1 培地厚、ヤシ繊維シート敷設の有無がヒメイワダレソウの被覆率に及ぼす影響

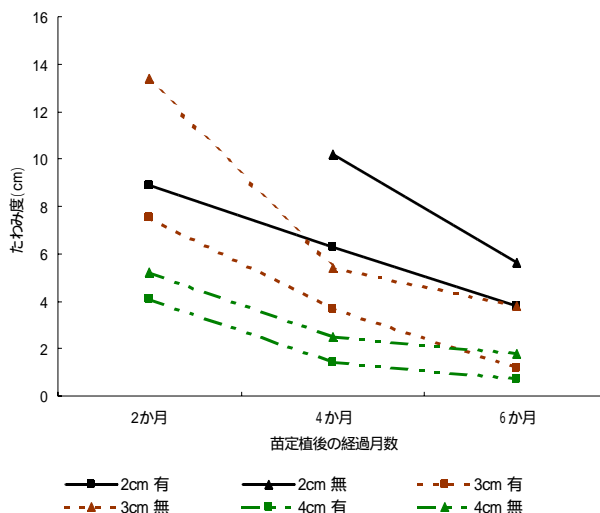


図2 培地厚、ヤシ繊維シート敷設の有無がヒメイワダレソウマットのたわみ度に及ぼす影響

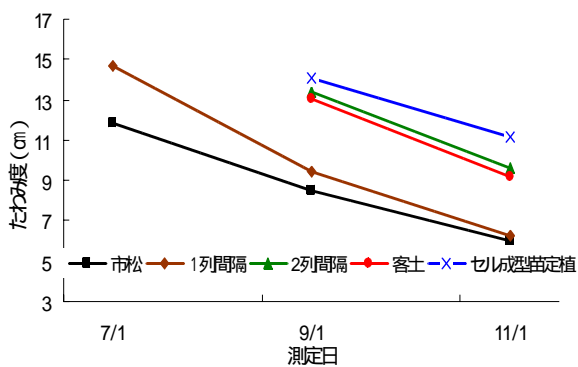


図3 親株と空トレイの配置法がタイムマットのたわみ度に及ぼす影響

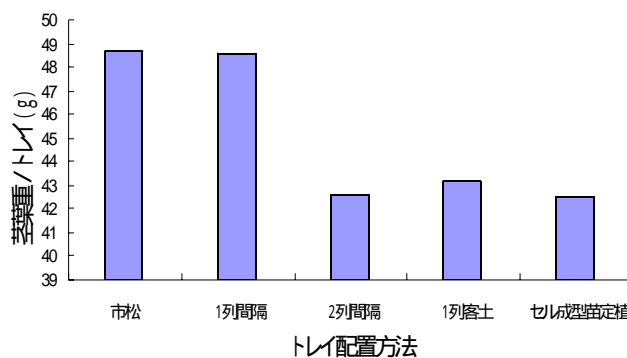


図4 親株と空トレイの配置法がタイムマットの生育量に及ぼす影響

[発表及び関連文献] 日本園芸学会雑誌74 別冊2 (2005)

千葉県農業総合研究センター生産技術部平成16年度花き緑化試験成績書

[その他] 農林水産試験研究高度化事業「課題名：都市空間、特に屋上・壁面緑化に向けた軽量・薄層基盤植物の開発」